

男女共同参画社会とは？…男性と女性が対等で活躍する社会のことをいいます。しかし、これは男性と女性の体の特性を無視して全てを平等にする、という意味ではありません。「男性は仕事」「女性は家庭」というような役割分担に縛られることなく、個々の能力を生かし、互いに尊重し合い、活躍する社会を指します。



マタニティブルーって何色かご存じですか？

- 1 コバルトブルー
- 2 スカイブルー
- 3 ライトブルー

正解は、色の名前ではないので選択肢にはありません。

出産後から数日後の間に、約 25～30%の女性が経験する症状で、突然悲しくなったり、イライラしたり、涙がでたり、不安になったりします。2週間～1か月ほどで自然に落ち着いてきますが、人によっては長期に渡ったり、「産後うつ病」を発症したりします。

これは、盛んに分泌されていた女性ホルモンが、出産を境に急激に低下し、自律神経系に影響し、本人の自覚の有無に関わらず現れます。さらに、分娩や慣れない育児の疲れ、睡眠不足、育児不安などのストレスが重なり、情緒不安定になるのです。

そこで、大切なのが夫や家族の協力です。女性の症状を理解し、家事を分担したり、赤ちゃんのお世話を一緒にしたり、気分転換することが必要です。

しかし、そうはいても、女性のように妊娠期間を経ない男性が父親の自覚を急に持つのは難しいですし、妻を子どもにとられてしまったという気持ちもあるのです。そこにぶっきらぼうに色々頼んでしまうと、受け入れ難くなってしまいますので、上手に頼んだりすることも必要です。

女性には女性の、男性には男性の特性があります。お互いに、気持ちや状態を理解しあって、一緒に子育てを乗り切っていきましょう！

< 子育て期のパパへ >

今週、子どもと何回遊んであげられましたか？



子どもの笑顔を、何回みられましたか？

両親は、子どもの笑顔から明日の活力をもらっています。

子どもからたくさんのパワーをもらってほしい！！

スペイン、メキシコ、カナダ、イギリスに 1/4 世紀以上海外生活を経験する。現在は自宅(市内)にて英語寺子屋を主宰。3 歳～70 歳まで幅広い年齢層に英語を教えていらっしゃる、1952 年生まれの山崎 伸二さんに、男女共同参画と子育てについて編集委員が伺いました。

Q：男女共同参画についてどのような考えをお持ちですか？

A：男女…根っこの部分は元々違います。男女共同参画とは、男女が互いに助け合い自分達の良いもの足りないものをいかに補い合えるか知恵の出どころ。共同参画の方法は色々あり、夫婦と同じ環境の人達と一緒に子育てしながら考えて行けば良いこと。そして、子育ては物の豊かさより心と身体の豊かさを重要にしたいです。

Q：子どもと接していて困ったな～と感じる事はありますか？

A：子どもは 1 日の時間帯や疲れ具合によって機嫌が悪くなる時がありますよね。その時に私もまんまとその挑発にのってしまって子どもと同じレベルになってしまう時があるんです。修行中です。

Q：子育て中のお父さんに伝えたいことはありますか？

A：会社はお父さんを首にするけれど、子どもはお父さんを首にはしません。忙しいお父さんも、できるだけ子どもと一緒にいる時間を持って、たくさん子どもと接してほしいですね。

座談会

～育児共同参画～

山崎さん(表参照)と編集委員(女性3人)と、編集員の夫2人で「育児の男女共同参画」をテーマに座談会を開きました。

S:ヨーロッパでは育児休暇はどうですか?休めますか?

山:職種によって期間は違いますが、それでも休めます。それは、自分のライフスタイルを常に考えているからでしょう。

出産前の講座に出て、出産時の立会から出産直後の授乳(母乳でもミルクでも)も交代でします。

S:海外に赴任してた職場の人から聞いた話だとヨーロッパではベビーカーを押していると行列でも優先させてくれるみたいな話を聞いて、日本とはホスピタリティーが違うなと思いました。

H:日本でも、ホスピタリティーってというのは絶対ある!

S:日本的な男女共同参画をつくっていくにはどうしたらいいのかな?

山:韓国や日本の会社員を例にとると、個人や共同体よりも圧倒的に会社の比重が大きい特殊な社会です。まずは、出産を機に、個人の仕事と生活のバランスの見直しでは?

Y:私は親や周りの人から男性は

外で働いて稼いでこそ社会に貢献していると思われてきたので、それが当たり前だと思っていました。

T:それって多分、日本が戦後に右肩上がり急成長して、その過程で男が働いて女が家庭を守っていくって役割分担があったって、その戦後世代の方々が今、会社の管理職以上の役職についているから、会社は男が回すものだっていうふうになるんだと思います。

でも、今は女性が会社に入ってきたり、当時と考え方、価値観が違っているからうまく考え方が共有されていなくておかしなところがあると思う。



S:なるほどね。戦後は働いた分だけ収入が増えるというリターンがあったからこそ、役割分担が進んだんでしょうかね。

男性は、長時間労働がより当たり前になってる。しかも、妻が妊娠しても出産してもほとんど労働時間が変わりがない。働き方を変えることの難しさが分かれますよね。

H:女性は会社に入って、男性と同じような労働環境に身を置く

事で、ストレスによる女性特有の体調不良や子どもができていく身体になっていく事実があるでしょ。女性は本来は戦う身体ではないからね。

だから、若者に自分が出来る範囲と、そうでない区別をつける事も必要だよ。ということも教えていきたいね。

S:個人の意識が変われば社会が変わる。世代が変わらないと、世の中は変わらないのか、とも受け取れるけど、それを待つしかないのか?

山:子どもも母親も限界です。

S:企業はどうしても営利目的が最優先になることを考えると、国や地方自治体といった行政で取り組めるようなことってないですか?

山:母親の子育ての負担軽減のため、父親には出産に関する講座の出席や育児休暇を義務化してはどうですか?

人生に無駄な経験なんて無いと思います。赤ちゃんにミルクをあげたり、おむつを換えるとか何かが変わると信じています。お父さんと子どもの両方に。

あとは公園に小さい子どもから大人まで一緒に遊べる遊具がほしいですね。大人と一緒に滑れるくらいの滑り台とかふわふわドーム。笑!

Y:そうそう!親と子が一緒に遊べて楽しいよ。笑!今の子どもは遊びながら筋力を鍛えること

が出来なくて可哀そう。

子供たちは親の笑顔が何より大好きで、私も良く子どもに言われてます。「ママとパパの笑ってるおかおがスキ〜!」って!

A:パパも育児休暇がとれたらいいのね。

H:男性には育児休暇のスペンが長すぎてとりにくいよね。冠婚葬祭みたいに配偶者は1週間で3親等だ何日って短期間でもとれるようにしてもらった方が休みやすいよね。

山:NHKの子ども番組の中で、好きな歌があります。

「父さん、父さん僕のお父さん、会社に行けば会社員〜」という歌です。

男性も女性もいろいろな立場を同時に持っているということを気づかせてくれる良い歌だと思います。

A:必要なのは、お互いを理解した上での「お・も・い・や・り」。「思いやり」ですね。



山:市内在住の子育て中 60代

男性(表面インタビュー参照)

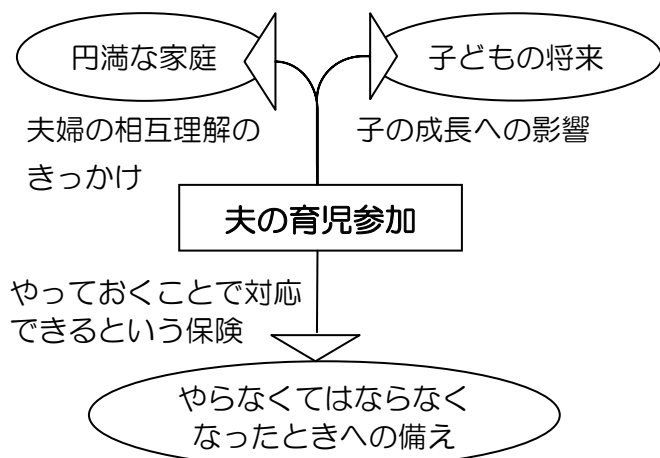
H:編集委員 40代2児ママ

Y:編集委員 30代3児ママ

S:Yの夫

A:編集委員 40代2児ママ

T:Aの夫



～男性が育児や家事に参加することの経済的メリット～
 人生には失業や事故、介護などさまざまな困難がありますが、そうした場合に昔も今も変わらぬ最強のセーフティネットとなるのは家族です。産後の時期に夫婦が互いに理解を深める事ができれば、その後も夫婦は強い信頼関係で結ばれることでしょう。また、父親を含むさまざまな人が育児に関わる事が、子どもに非常にいい影響を与える事は世界各国の研究者が繰り返し報告しています。多額の金銭を投じる早期教育もいいですが父親が子どもを育てるのはそれに負けないほど効果的なことです。